

# 尻腐れ症 しりぐされしょう



石割京大農園  
Ishiwari Kyoto-univ. Farm



7月23日大暑。梅雨も明けていよいよ暑さは本番、毎日35℃を超える日が続いています。野菜たちに十分に水を与えることが必須の季節です。この季節はウリ科とともに、茄子やトマト、ピーマン、万願寺唐辛子、伏見甘長唐辛子などのナス科野菜も旬を迎えます。写真は緑鮮やかなピーマンですが、しかし、果実の先の方に褐変した部分が見られます(←)。これが尻腐れ果と呼ばれる、夏のナス科果菜類で頻発する生理障害です。トマト果実の先端が黒ずんだり、ピーマンや唐辛子の先端に近い部分が褐色に変色します。原因はカルシウム欠乏ですが、多くの場合、土壌にはカルシウムが十分に存在しており、真の原因は作物が吸収したカルシウムを体内でうまく分配できないことです。暑い季節、作物も水をたくさん吸収しますが、この水は主に葉から蒸散されるため、蒸散量そのものの少ない果実にはカルシウムが分配されにくくなり、その結果、カルシウム欠乏障害が果実に発生するようです。尻腐れ果が発生しにくい栽培方法の確立や耐性品種の育成、尻腐れ果の発生予察技術の開発、作物体内でのカルシウムの分配の仕組みを明らかにすること、などが求められます。